

卓 話

平成 23 年 4 月 12 日

『第二の人生』

岐阜中ロータリークラブ 勝野和男 会員

私のゴルフにつきましては、常日頃、松井先生からもかなり高い評価を頂きまして、ここ数年にわたり投資を頂いています。そろそろ、これにお応えせねばと、今年はまず3月中に100を切るという計画を立てましたので、4月にはいりました今日は、「如何にして100を切ったか」という苦労話をしながら、日頃ゴルフに苦しんでおられる方々に、ゴルフの初歩の手ほどきを伝授しようかという予定でございました。しかし、先日の最後のチャンスも114という残念なスコアに終わりましたので、予定を変更いたします。



当クラブも最近では、お孫さんをお持ちの方も随分多くなりました。「這えば立て、立てば歩めの親心」と言いますが、孫というものは本当に可愛いものであります。七年ほど前でしたが、この孫たちが一生懸命になって、パンツをはいたり、ボタンをかったり、あるいは箸を持つ練習をして、その一つ一つをこなす度にアドレナリンが吹き出したように行動が活発になっていく姿に興味を持ちました。ちょうどその頃、読みました本で、脳からは新しく開発される部分へは活動に備えて筋肉を増強し、さらに行動を活性させる指令が出るということを知りました。人は持ち合わせた脳の三分の一も使っていないそうで、さらに60歳を過ぎる頃からは、使わなくなった脳みそは、どんどん消滅してゆくそうであります。そこで、第二の人生は、このせつかく頂いた脳みそをとことん使ってみようと考えました。それで、アドレナリンが出て若々しい人生が送れれば、新しい世界が開けてくるだろうということで、早速実行であります。孫たちを見習い、手始めは左手の開発です。歯磨き、髭剃り、しり拭き、そしてサッカーなど、それぞれを違和感無しにクリアするには半年ほどかかりましたが、一つ一つの達成の過程で行動がどんどん活発になって、気力が湧いてくるのが実感できたことが収穫でありました。

そんな中で、とりわけ大きい目標が、未だに消化不良のゴルフ、そして、ピアノへの挑戦です。ゴルフは最初にいいました通りですが、乗り越えなければならない一つの壁があります。ピアノは始めて4年半になりましたが、上達には人前で弾くことが大切だそうで、今日は皆さまに犠牲になっていただきまして、弾かしていただくことにしました。1年ほど経った頃、習いましたツェルニーの“そよ風”。二年目の頃覚えた“バッハのメヌエット”。そして只今練習中の沖縄の民謡“涙そうそう”の三曲です。ゴルフのように皆さまに感動を与える域まではとてもですが、我慢のひとつときをよろしく願いいたします。(^^♪